

《創刊号切抜帖》

平凡パンチ

「Weekly 平凡パンチ」が一九八八年十一月十日号をもって休刊した。

今年二月には「パンチ」の名を残して復刊するというがひとまず六十年代から続いていた一つの青春のスタイルが終わったと言えよう。

「平凡パンチ」は一九六四年四月二十八日に創刊された。若い男性を対象とした週刊誌は初めてだったことから、特に十代二十代の若者たちに、熱狂的に迎えられた。

車、ファッション、女を主体とし、特に三つ折込みのヌード・グラビアは評判となった。どの週刊誌の巻頭でもヌード・グラビアがついているのが当り前の今見ると、芸術としてのヌード写真に近いものに見えるが、当時としては衝撃的だった。また、大橋歩の表紙に書かれたアイビー・ルックが若者たちの間にたちまち流行していった。

東京オリピックやベトナム戦争、学園闘争の時代に生まれた「平凡パンチ」は、若者たちの間に「片手にジャーナル、片手にパンチ」というスタイルとして定着し、時を重ねていった。

しかし時代が移り、世代が変わっていくにつれて、「パ

ンチ」は少しずつ時代から遅れていく。流行が毎年変わっていくように。

部数が減りつつあった一九八三年七月、「パンチ」は誌面を一新する。サトウサンペイを表紙に起用し、グラビアからヌードを掃いた。しかし落ちこんだ部数を回復することができないまま、翌八四年七月に版型を変えて、ヌードグラビアを復活させた。その後、八五年七月に元の版型に戻るが、部数回復ならず、八八年十一月ついに休刊。創刊から二十九年、当時二十歳だった若者も五十に手の届く年月である。現在、若者雑誌と呼ばれている数誌もいつか、若者たちのライフスタイルが変わっていくにつれ、少しずつ時代から遅れていくかもしれない。それはある意味で「若者雑誌」の運命なのだから。

一九八九年二月、今の若者たちから名前を公募する今の「パンチ」が創刊される。

(鴨)